

JAPAN MONKEY CENTRE

送信先	報道各位
送信枚数	本紙を含めて 4枚
送信日	2018年 12月 9日

冬の風物詩「たき火にあたるサル」 今年も12月22日（土）（冬至）より開催！

年の瀬が近づき、みなさまお忙しく過ごされていることと存じます。

さて、今年も冬至より、冬の風物詩「たき火にあたるサル」を開催いたします。伊勢湾台風の年（1959年）から半世紀以上の伝統をもつ風物詩（由来は別紙参照）で、火を全く恐れずに、大きなたき火で暖をとるサルたちの姿が見られます。

14:00からの「ほかほかおイモタイム」では、サルたちがたき火で焼いた焼イモをほくほくと美味しそうに食べます。熱々のイモを冷やすために水につけたり、地面にこすりつけるなど個性豊かな方法で冷ましながら食べる姿も合わせてご覧ください。

・冬の風物詩「たき火にあたるサル」概要

■日程 2018年12月22日（土）冬至 ～2019年2月24日（日）の土日祝

※12月29日～1月6日は毎日開催

※雨天決行、荒天時中止

■場所 日本モンキーセンター内 モンキーバレイ

【たき火にあたるサル】

火をこわがるはずのサルたちが、たき火を囲んでポカポカ！？

伊勢湾台風の年から59年続く、冬の風物詩です。

時 間：11:30～14:00

【ほかほかおイモタイム】

飼育員のガイドのあと、たき火で焼いたおイモをサルたちがほおぼります。

アツアツのおイモを美味しそうにほおぼる様子をご覧ください。

時 間：14:00～

また冬至に先立ち、12月19日（水）の休園日に「取材用のたき火」をおこないます。本番と同様にモンキーバレイ内で火をたき、焼イモもおこないますので、報道関係の皆さまにも取材をさせていただきます。取材に来られる場合は事前にご連絡ください。

■日程 2018年12月19日（水）

たき火：11:30～14:00

ほかほかおイモタイム：14:00～

本件に関するお問い合わせ先

〒484-0081 愛知県犬山市犬山官林 26

公益財団法人日本モンキーセンター

TEL：0568-61-2327 FAX：0568-62-6823 メール：info@j-monkey.jp

担当：附属動物園部 山田、荒木、石田 学術部 江藤、赤見 事務部 安倍

資料 1：冬の風物詩「たき火にあたるサル」の由来

1959年(昭和34年)に東海地方で猛威をふるった伊勢湾台風の時に、出た倒木や家屋の残骸、木曾川河岸に流れ着いた流木を利用して、旧犬山野猿公苑(開苑期間:1957年~1997年)にて職員が、冬場暖まるためにたき火を始めたのがきっかけでした。子ザルがたき火に近づき当たりだしたのです。今ではどのサルも火を怖がらずたき火に当たっています。勢湾台風が産んだ冬の風物詩として、これまで「冬至」より翌年の2月末日(暖冬などにより変更あり)まで毎年続けており、今年で59年を迎えます。また、余禄としてたき火でサツマイモを焼き、サルたちに寒い冬の午後の一時を幸福に浸ってもらっています。2時間以上かけて焼かれる「焼イモ」の味は格別ようです。

たき火にあたるのは、世界遺産の島、屋久島にのみ生息するサル「ヤクシマザル」で、現在155頭がモンキーバレイで暮らしています(資料参照)。ニホンザルの亜種で、体格が2回りほど小さく全体にこじんまりとしています。好奇心が強く、放飼場フェンスの外にある葉っぱなどを、枝を使い獲得したり、石と石をぶつけて鳴らす石遊びなど、次々に新しいことを編み出します。たき火のあとの焼イモを、池の水で冷やす行動も見られます。現在の第一位オスはタイマツ(1999年4月27日生まれ)で初代から数えると第16代目になります。

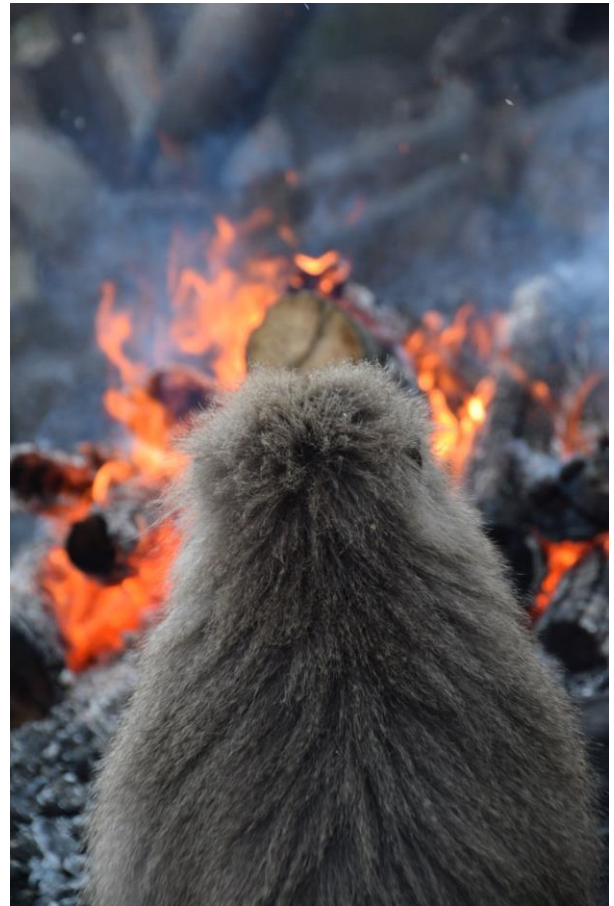
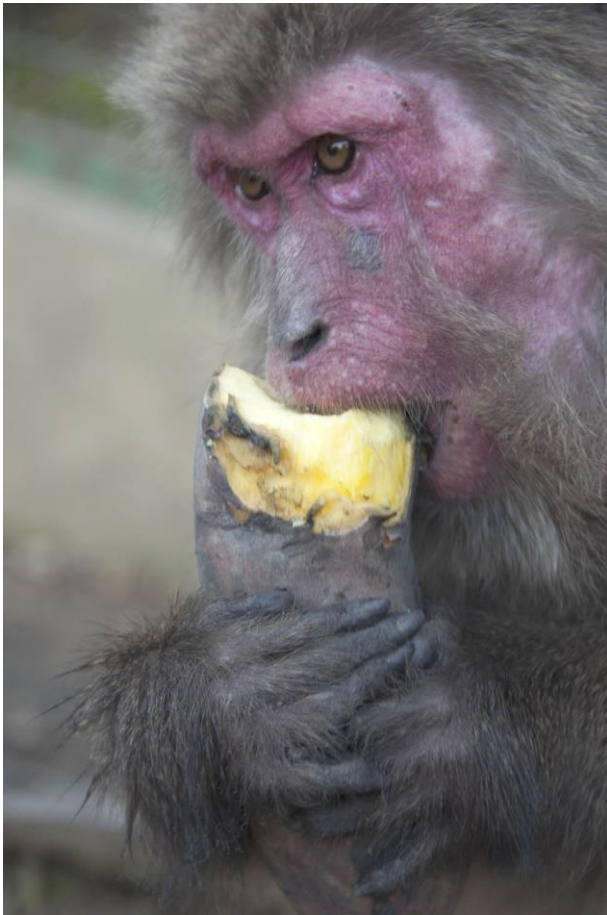
日本モンキーセンターでは1957年(昭和32年)以来、8世代にわたってヤクシマザルを犬山で飼育し、様々な研究者の研究対象として、また霊長類を学んでいただくための生きた教材として、多くの方に愛されてきました。たき火にあたる行為は自然に発生したもので、他所ではニホンザルを用いて人為的に試みられていますが、8世代にわたって受け継がれ、0歳から母親とともにたき火にあたっているモンキーセンターのサルたちと同じようにはいかないようです。



犬山野猿公苑で実施していた頃の「たき火にあたるサル」

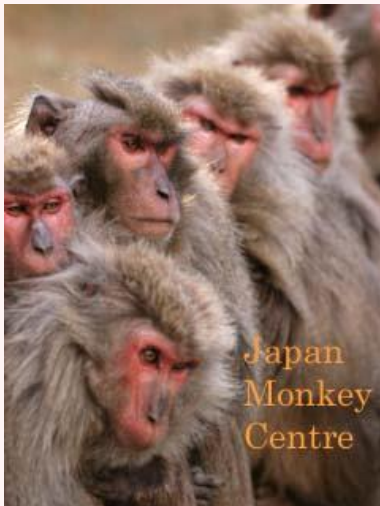
資料 2 : たき火の様子





資料 3 : ヤクシマザルについて

ヤクシマザル



英名	Japanese Yaku-Macaque
学名	<i>Macaca fuscata yakui</i>
CITES	II
IUCN	LC

分布



屋久島

会える場所

[モンキーバレイ](#)

- 世界遺産の島、屋久島に生息するニホンザルの亜種。
- 本土のニホンザルにくらべると、やや小型で体毛が長く、荒い。